

熊本県立小国高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
教育基本法の理念、及び「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」と本校の三綱領「尚志・勉学・自主」の具現化を図る。基本的人権の尊重に基づき、深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた最適な指導・支援を行い、徳(豊かな人間性)・体(健康と体力)・知(確かな学力)の調和のとれた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。

2 本年度の重点目標
(1) 「徳育・体育・知育」の三育並進による知性と品性を備えた生徒の育成 (2) 志を高く(尚く)掲げ、自主的で意欲的に学び続ける生徒の育成 (3) 基本的生活習慣を確立し、情操豊かで社会性を備えた生徒の育成 (4) 適性を見極め、主体的な進路選択のできる生徒の育成 (5) 生まれ育った郷土に感謝し、郷土を誇れる生徒の育成 (6) ICTを活用した授業改善・業務改善

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安心・安全な学校環境づくり	災害時における生徒の安全確保	防災教育を通して防災意識を高め、災害の危機を理解し、自らの安全を確保する行動や日常の備えができるようにする。	定期的に防災だよりを発行し防災への理解と意識を高める。発生時刻を予告せずに避難訓練を実施して主体的な行動を促す。実際の災害に備えて備蓄物資を学校に保管する。	A	定期的な防災だよりの発行や危険予測力を高める避難訓練を実施し防災意識が高まった。非常用備蓄物資の提出は約4割に止まったため、合格者説明会等で保護者への啓発も行うなど、防災対策・防災教育を継続する。
		保健教育・教育相談体制の充実	思春期の心身の課題に対して、専門的な立場からの学びの機会を設け、望ましい意志決定・行動がとれるようにする。	各学年の実態に応じた性教育講話やストレス対処教育、全校生徒に向けた薬物乱用防止教室を実施する。日頃の様子や年間2回実施するアンケートなどをもとに定期的に教育相談を実施する。		B
	開かれた学校づくり	積極的な情報の発信	小国高校の今を伝えるため定期的にホームページを更新するとともに、学期に1回小国高通信を発行する。地域のラジオ放送やケーブルテレビで学校の様子を伝える。	ホームページに掲載した内容をもとに小国高通信を作成し、近隣の学校に配付する。地域のメディアに学校の行事等を伝えるため情報を提供する。	A	ホームページに学校の様子を100周年に向けた事業の一環としてこれまでFM小国で放送していた内容を映像でも収録し両町で放送していただいたことにより、地域の方から声をかけていただく機会が増え、学校の様子を伝えることができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	保護者や地域の方との交流の活性化	学校行事への保護者及び地域の方の参加者を増やす。	育志会役員会やホームページ、地元メディア及び小国高通信を活用して行事の照会や案内を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加が難しい場合はオンライン配信などにより学校行事の様子を見せよう。	B	行事等の案内は行ったが新型コロナウイルス感染症予防のため、保護者や地域の方の来校をお断りしたりすることが多かった。ケーブルテレビで学校行事の様子を放送してもらい、多くの方に生徒の活動を伝えることができた。
学力向上	主体的・対話的で深い学びの実現	授業時間の確保と実施	授業の振替又は監督付きの自習を100%行う。自習の際は必ず課題等の準備を監督者に具体的に示す。	授業の時間割変更を必ず行うとともに必要に応じて特別時間割を作成して授業措置を徹底する。	A	出張やweb研修等がある週は特別時間割を作成し授業入替をすることができた。突発的に授業担当者が不在の時も教科間及び学年間で連携を取り合い、対応することができた。
		職員の積極的な教材研究及び授業計画	授業アンケートにおいて、授業内容・進度・板書等の評価項目で適切であると答えた生徒の割合を全て90%以上にする。	公開・研究授業週間において授業見学を行い、職員間で授業についての意見交換を活発に行う。	A	授業評価アンケートの目標に掲げた項目については、ほぼ100%に近い割合が肯定的意見だった。公開・研究授業週間は3人グループでの授業参観を行い、教科を横断した意見交換をすることができた。特にICTの活用方法について情報交換をすることができた。
学力向上	家庭学習時間の確保と習慣化	課題の管理と計画的な指導	学習内容を定着させるために適切な質及び量の課題を与え、生徒の計画的かつ系統的な学習を支援する。	授業アンケートの結果を受けて、生徒へ個別に声かけを行うとともに、計画性の大切さや課題の意義について生徒が学べる機会を作り、意識向上に繋げる。	B	授業内で各担当者が声かけをするともに、Google classroomで呼びかけをするなど、生徒に様々な方法でアプローチすることができた。今後は生徒自身もお互いに声を掛け合いながら主体的に取り組んでいけるような取組を行いたい。
		家庭学習の習慣化	家庭学習時間調査において、生徒の目標学習時間到達割合を60%以上にする。	Google classroomを活用した調査を行い、生徒の家庭学習時間を全職員が毎日閲覧できるようにすることで、生徒への声かけや指導を促進する。	A	宅習時間調査における生徒の目標学習時間到達割合は、65.2%であり、目標を達成できた。昨年度が59%だったので、到達率が上がった。今後も家庭学習への意識を高めていきたい。
キャリア教育(進路指導)	3年間を見通したキャリア教育の推進	個に応じた進路指導の充実	スタディサプリの活用を推進する。	進路指導委員会を各学期1回実施し、各学年、各校務分掌での活用状況を確認して提案を行う。スタディサプリアを活用した課題考査となるよう教科、校務分掌と連携を図りながら改革に取り組む。	A	スタディサプリア導入初年度としてPDCAサイクルの流れに沿った組織的活用を進めることができた。スタディサプリアを活用した考査を実施したことで個に応じた生徒の学力到達状況の把握とその後の指導の充実に繋げることができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育 (進路指導)	3年間を見通したキャリア教育の推進	社会へ貢献できる生徒の育成	「キャリアパスポート」を利用した活動を推進する。	キャリアパスポート作成計画に沿って、生徒が学びを記録できるよう、各学年・担任との連携や支援に取り組む。	A	概ね計画に従って進めることができた。更に「小国高校卒業までに身につけて欲しい力」がどのくらい身につけられているのかアンケート調査を実施し、生徒の実態を把握することができた。調査結果を次年度の指導改善に繋げていきたい。
	進路目標の実現	教員の進路指導力の向上	生徒や保護者に対して必要な進路情報を提供できる教職員の割合を全体の25%にする。	職員の進路指導力向上のために研修機会を提供する。	B	オンライン上での研修機会は増加しているが研修に参加する職員に偏りが出ている。様々な職員が参加できるように工夫を検討していきたい。
		3年生全員の進路実現の達成	全職員が関わる進路指導	面接指導や小論文指導について、全職員で指導を行う。	A	全職員の協力の下、一丸となって指導に取り組んだことで、大きな成果を得ることができた。更に小論文指導ではスタディサプリを利用するなど、より効果的な指導を進めることができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	コロナ禍の生活様式とマナー、学校生活の指導の徹底	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から生活様式やコロナ禍の社会生活に伴って、差別を許さない姿勢や基本的な生活習慣について指導を徹底する。	集会で講話を実施するとともに、学年と連携してコロナ禍での生活様式や差別、基本的な生活習慣の指導を徹底する。	B	コロナ差別が起こらないように、誰にでも感染することはあるということを踏まえて時期や状況に応じた周知をしている。また、保健部と連携し、生徒の生活状況把握や対策を講じている。現在のところ感染者は出ていないが、今後も状況に応じた対策や予防をしていく必要がある。
		予防指導の徹底	特別指導につながる事例や事件事故などの危機を予測し、声かけや事前指導の機会を定期的に設ける。	生徒指導部職員を中心に登校指導を実施し、継続的に声かけを行う。生徒の現状に合わせ、長期休暇前や行事前後に内容を厳選して集会で講話等を行う。	B	5月に特別指導が1件発生した。発生した経緯や指導を振り返りつつ、今後の指導や啓発につなげていけるようにする。校則を定期的に見直すことや、各学年、担任団と連携しながら事前指導を中心とした取り組みを継続して取り組んでいく。
生徒指導	交通道德に関する意識の高揚	交通事故・交通違反を無くす	重傷に繋がる交通事故「0」、交通違反「0」	交通安全教室を開催し、交通委員が定期的に交通安全について呼びかける。交通関連情報を職員に周知することで指導の統一を図る。	A	交通事故、交通違反は0件であった。小国警察署の職員の方を講師として招き、交通教室を実施した。最近の交通事情に応じた講話をしていただき生徒への交通安全への意識向上を促した。自転車保険の義務化など新しい情報を交通委員が中心となり、掲示物を作成したり、情報発信による啓発をしたりしていく。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	人権教育に対する理解の深化	地域の人権関係行事への参加	小国郷人権啓発フェスティバルに1年生全員が参加する。小国町人権子ども会における教科学習会や人権学習の充実を図る。	事前指導を実施して参加する意義を理解させ、実施後に取組について振り返りを行う。小国町人権子ども会での取組を通じて学んだことについて参加生徒を対象として、まとめを行う。	A	小国町人権子ども会における教科学習会は昨年度より参加者も実施回数も増やすことができ、活動の充実を図ることができた。小国郷人権啓発フェスティバルに関しては、今年度も対面でのフェスティバル開催は見送られたが、フェスティバルに向け1年生全員が人権作文に取り組むことができた。
		人権教育に取り組む姿勢の捉え直し	教師が自身の姿勢を言葉で表現し発信できるようになる。	人権に関する研修会等に全職員1回以上参加する。人権教育実践報告(レポート)を作成する。校内研修では、レポート等について相互に意見を交換することで人権教育に関する理解を深める。		B
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情と自己有用感を高める	生徒に命の大切さを再認識させ自身の大切さと役割に気づかせる。心のアンケートにおいて「誰かの役になっていることがある」、「自信のあることや自慢できることがある」と答える生徒を昨年度の県平均以上にする。	「命を大切に する心」を育む指導プログラムの指導ユニットに基づき、生徒の自己実現等の意識を高める。実践毎にアンケート又は感想文を書かせ、自身を見つめ直す機会を持つ。実践した指導ユニットの効果について、取組を検証する。	B	スクールロイヤーによる生徒向けの講演会において、一言の重さについて考える機会を提供し、生徒に命の大切さを再認識させる取組ができた。心のアンケート結果からは「誰かの役に立っていることがある」と答えた生徒が22.4%(県平均21.6%)、「自信のあることや自慢できることがある」と答えた生徒が41.4%(県平均36.0%)と向上した。
いじめの防止等	いじめの未然防止	人権意識を高め、自身の行動がどのような影響を及ぼすかといった想像力を育む	いじめる側についての問題、集団の中に属する生徒についての問題、人の痛みがわかるようになること等について生徒に理解させる。	人権教育LHRを計画的に実施し、スクールロイヤーによるいじめ予防について講演会を実施する。人権週間に合わせた人権朝読書を行い、人権作文、標語を作成する。人権だよりを定期的に発行する。	B	例年の取組に加えてスクールロイヤーによる講演会も実施し、いじめの未然防止に向けた取組を充実させることができた。次年度は人権朝読書の取組を生徒主体で行い、更に人権意識が高まるよう充実を図りたい。人権だよりについては、例年同様に発行し、更にいじめ防止につながる動画を視聴して生徒の意識を高めることができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめの早期発見といじめ事案への対応	アンケート調査の実施と事後対応	いじめ事案については解消率100%を達成する。	各学期1回いじめアンケート(心のアンケート)を実施する。いじめ事案が発生した場合、速やかに対応する。	A	計画通り学期1回の実施ができた。いじめ事案に対し、早期の解決に向け組織的に取り組むことで解消率100%を達成できた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域協働活動の推進	総合的な探究の時間の活用	地元のことを学び、考え、伝えるための「小国郷を知る」講座に加えて、COREハイスクール・ネットワーク構想において他地域の高校と連携した課題解決型の学習活動を行う。	地域の魅力を引き出し、課題を解決するための具体的方策を両町役場等と連携して提案する。2年生では、県外を含めた他地域の生徒と意見交換を重ね、探究活動の深化を図る。	A	1年生で、阿蘇ジオパーク協議会の協力を得て講演やワークショップなどを行い、地域のことを深く知る機会を持つことができた。2年生でも昨年度から継続している山形県や岩手県の高校生徒の交流に生徒が積極的に参加し、より深く探究活動を行うことができた。
		地域団体との協働活動の実践	ボランティア活動に積極的に参加する。高齢者支援や障がい者支援など、地域で必要とされている活動に全校生徒の8割以上が取り組む。	両町の社会福祉協議会等と連携して、高齢者支援や障がい者支援、子育て支援、美化活動などに参加し福祉活動に対する生徒の理解を深め、積極的に携わる姿勢を育てる。	B	コロナ禍のため、高齢者や障がい者に向けたボランティア活動を十分に行うことはできなかったがボランティアに関する学習会を実施して生徒のボランティアに対する意識を高めることができた。
	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり	本校に対する要望等を聴取し、本校の役割を明確にして地域からの信頼と相互理解に基づく関係を構築する。	学校運営及び地域貢献に生かすために、学校運営協議会だけでなく、授業参観や学校行事においても委員を中心とした地域の方と意見交換を行う。	B	感染症予防のため、授業参観や学校行事への参加をしていただくことはできなかったが、書面等で多くの意見を伺うことができた。
中高一貫教育の推進	中高一貫教育の充実	三校合同の交流活動の充実(生徒交流)	第2回中高一貫三校合同研修会における生徒交流のアンケート項目について肯定的な評価を80%以上にする。	コロナ禍でリモートを活用した三校の生徒同士が交流する場を設定する。	B	リモートで生徒交流を行う計画案まではあがったものの、実施までは至らなかった。体験入学において中学3年生と高校1・2年生との交流の場として座談会を実施し、中学生から好評であった。次年度に向けて生徒交流の場を提供できるよう検討していきたい。

4 学校関係者評価

- コロナ禍で地域との連携が希薄になり、開かれた学校づくりに逆行する社会情勢になっている。生徒と社会を繋ぐ窓口である家族とのコミュニケーションも十分ではない。今後、生徒、家庭、社会とのつながりを再構築する必要がある。
- 家庭学習の習慣化については、家庭環境の変化にも一因がある。家庭学習ができない、学習しない生徒の背景を考える必要がある。
- 命を大切にすることを育む教育という項目があるが、地域の社会福祉協議会で、社会的に困窮している人の支援を行い、誰一人取り残さない社会づくりを行っている。関係機関と連携して福祉教育を行ってはどうか。
- 進路指導については素晴らしい結果を残して、生徒、教職員、保護者の努力の結晶だと思う。
- コロナ禍の中、ICTの推進など、新しい時代に合わせた教育・学校運営は大変だと思う。小国郷の最高学府として必要な教育機関である。地域と一体となって生徒たちの教育と成長の支援をお願いしたい。
- 生徒は、学校生活を真摯に楽しく過ごしていることが伺える。小国高校に進学したいと思う中学生が増えれば良いと思う。
- 生徒は楽しく学校生活が送れているようだ。保護者も学校の教育に満足しているように思われる。もう少し地域活動への参加があれば良いと思う。また、進路については、地元への就職がもう少しあって欲しい。
- 常に情報発信を行い、継続していくことが大切だと思う。地元広報誌や地域のFMラジオ、ケーブルテレビの番組など地域への発信も続けて欲しい。

5 総合評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動に制約がある中、教育目標の達成に向けて取り組んだ。自己評価総括表では評価がAとBの項目が多く、目標を概ね達成できたと考えられる。
- 本校の魅力を発信するため、地域のFMラジオやケーブルテレビ局の協力を得て、広報活動に力を入れた。定期的に番組が放送され、本校の情報と魅力を発信することができ、地域の方から良い評価をいただいている。
- 進路指導では、国公立大学進学者数が過去最高を記録し、就職についても、全員の進路決定を達成するなど、生徒の希望及び保護者の期待に応えることができたように思う。
- 生徒指導では、警察署の協力を得て交通安全教室を開催するなど、交通指導に力を入れた。交通事故及び交通違反は0件で、目標を達成することができた。
- 学校評価アンケートの結果から、本校に対する生徒及び保護者の評価は高く、期待されていることを感じる。来年度の創立100周年に向けて、教育活動の更なる充実を図り、本校の存在価値を高める取組を行う。

6 次年度への課題・改善方策

- 来年度は創立100周年を迎える。地域に根ざした、地元から期待される高校であり続けるために地域と連携した取組を継続し、本校の更なる魅力化を図る。
- 生徒の家庭学習の習慣化については、目標を達成したものの、予習・復習を中心とした学習習慣の確立と進路志望を意識した取組とするためには、更に工夫が必要である。生徒の意識改革と教師の指導の在り方、課題の質や量について今後も改善を重ねていく。
- ボランティア活動については、感染症予防のために活動が制限され、希望をしても参加できない生徒が多かった。来年度は生徒の興味関心がある分野での参加ができるよう、関係機関と連携を取って積極的に案内等の情報を発信する。
- 中高一貫教育については、コロナ禍で思うように活動ができず、十分な成果を残せなかったが、来年度の取組が充実するように準備をしていきたい。